

令和 6 年度 新潟県体力テスト 結果概要

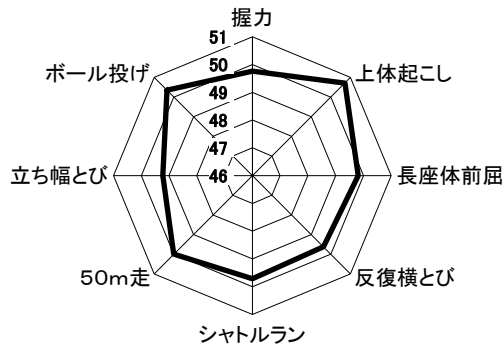
- 1 調査対象校（国立及び特別支援学校を除き、新潟市を含む全公立学校）
 小学校等 430 校（義務教育学校前期課程を含む＝以下「小学校」）
 中学校等 228 校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程を含む＝以下「中学校」）
 高等学校等 92 校（中等教育学校後期課程を含む＝以下「高等学校」）

2 調査期間 令和 6 年 5 月から 7 月

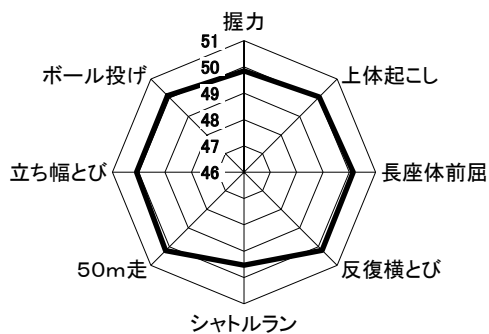
3 実技調査内容 小学校 3 年生以上、中学校、高等学校で 8 種目を指定して調査した。

番号	1	2	3	4	5	6	7	8
項目	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ
要素	筋力	筋力 筋持久力	柔軟性	敏捷性	全身持久力	スピード	瞬発力	巧緻性 瞬発力

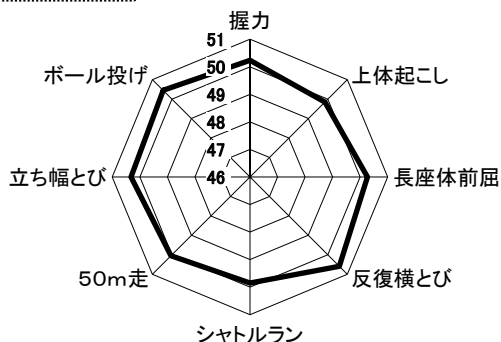
小学校3～6年



中学校等



高等学校等



4 令和 5 年度の県平均値との比較

令和 6 年度は、実態をより正確に把握するため、これまで男女別・学年ごとの平均値の提出を求めていたものを、児童生徒の個人データをすべて提出いただくように実施要領を改めた。これは、集団規模を考慮して平均値を扱うよう是正するためである。

左のグラフは、令和 5 年度を 50.0 として令和 6 年度の結果を示したもので、8 種目の平均値は、小学校 49.9、中学校 50.0、高等学校 50.2 であった。

令和 5 年度を上回った種目は、小学校 3 種目、中学校 6 種目、高等学校 6 種目であった。

小学校では、上体起こしが 50.71 と大きく上回った一方、立ち幅跳びが 49.23 にとどまった。男女別ではすべての学年で女子は令和 5 年度を下回った。

中学校では、シャトルランが 49.53 と全校種で最も低い値となったが、概ね昨年度並みか上回る結果となり、全体としては横ばいという状態であった。男女別では小学校と同様にすべての学年で女子は令和 5 年度を下回った。

高等学校は、上体起こしとシャトルランが 49.85 と僅かに下回ったものの、全体としては令和 5 年度を上回る結果となった。男女別では、男子がすべての学年で令和 5 年度を上回っており、特に 2 年生と 3 年生は 8 種目すべてで 50.0 を超えた。

5 全国平均値を基準にした場合の体力の変化

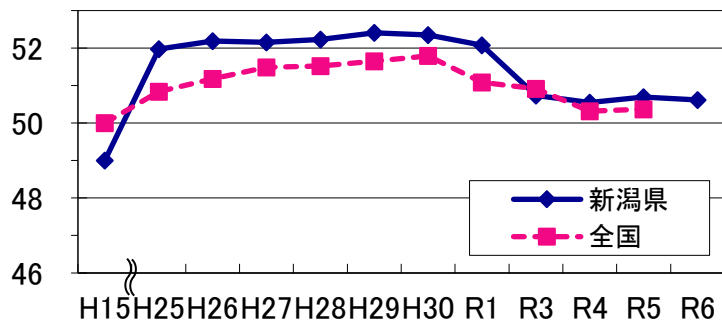
(1) 小学生の体力

県は、しばらく全国を上回る状態が続いていたが、令和元年度から 3 年度にかけて、全国を上回る下降幅となり 15 年振りに全国値を下回った。この令和 3 年度からほぼ横ばいの状態が続くが、全国値が下降したことによって、令和 4 年度以降は本県が上回る状態になっている。

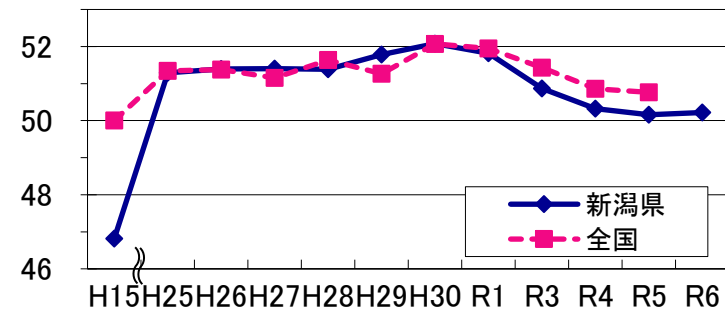
(2) 中学生の体力

全国は、平成 30 年度をピークに下降している。県も同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて

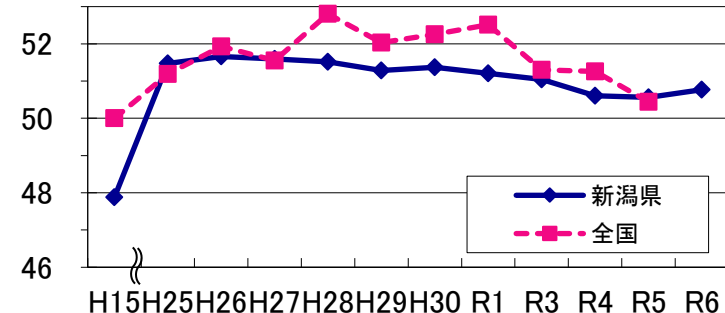
(図1) 小学生の体力



(図2) 中学生の体力



(図3) 高校生の体力



下降局面に入ったが、その下降幅は、全国を上回る急激な落ち込みであった。その後も前年度を僅かであるが下回る状態が続いていたものの、令和6年度は微増となり、6年振りに上昇した。

(3) 高校生の体力

全国は、年度ごとの変動が非常に大きいのが、県は、平成26年度をピークに緩やかに下降している。全国を下回る状態がしばらく続いていたが、令和5年度には8年ぶりに逆転し、令和6年度はさらに上昇している。

〔グラフの説明〕

県内の公立小・中・高等学校の全ての子どもを対象に、体力テストを開始した平成15年度の全国平均値が「50」となるように統計処理をし、平成15年度及び、平成25年度から令和5年度までの全国平均値と、令和6年度までの本県平均値の変化をグラフに表したもの。

(令和2年度は全国・県ともに中止、令和6年度の全国平均値は未発表)

6 アンケート調査内容

全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁）に準じ、以下の三つの内容についてアンケート調査をすべての児童生徒（小学校、中学校、高等学校）を対象に実施した。

- 運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか
 - 1 好き 2 やや好き 3 やや嫌い 4 嫌い
- あなたにとって運動（体を動かす遊ぶを含む）やスポーツは大切なものですか
 - 1 大切 2 やや大切 3 あまり大切でない 4 大切でない
- 体育（保健体育）の授業は楽しいですか
 - 1 楽しい 2 やや楽しい 3 あまり楽しくない 4 楽しくない

(1) 運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか

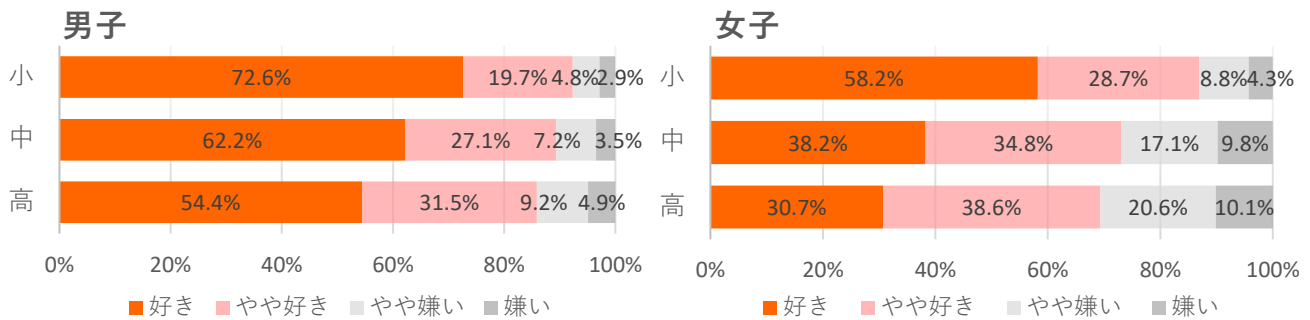
男女とも校種ごとの平均値では「好き」、「やや好き」の肯定的評価の割合が徐々に減少した。学年ごとの平均値でも若干の増減はあるものの、概ね学年を追うごとに肯定的評価が減少している。

(2) あなたにとって運動（体を動かす遊ぶを含む）やスポーツは大切なものですか

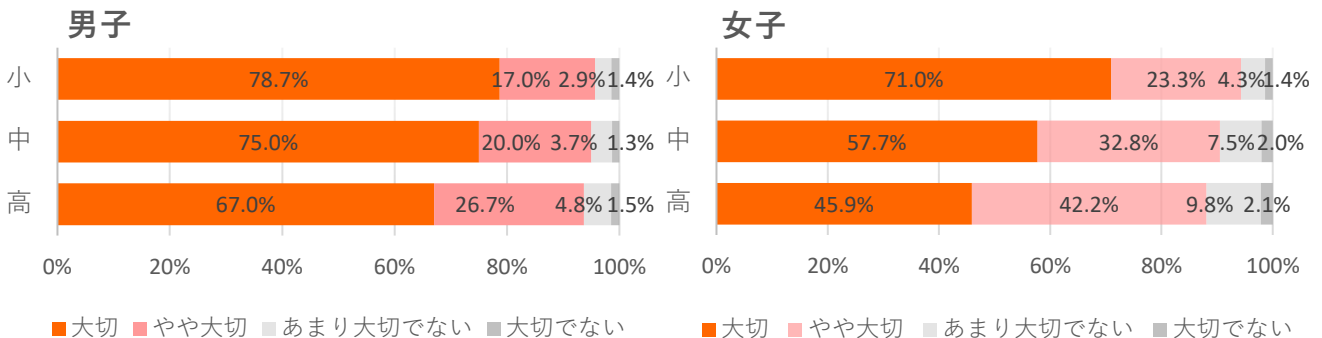
男女とも校種ごとの平均値では、「大切」、「やや大切」の肯定的評価の割合が徐々に減少した。

全体としては、(1)、(3)の結果と比較して高い結果となり、運動やスポーツの価値や意義についての理解はなされていることが伺える。

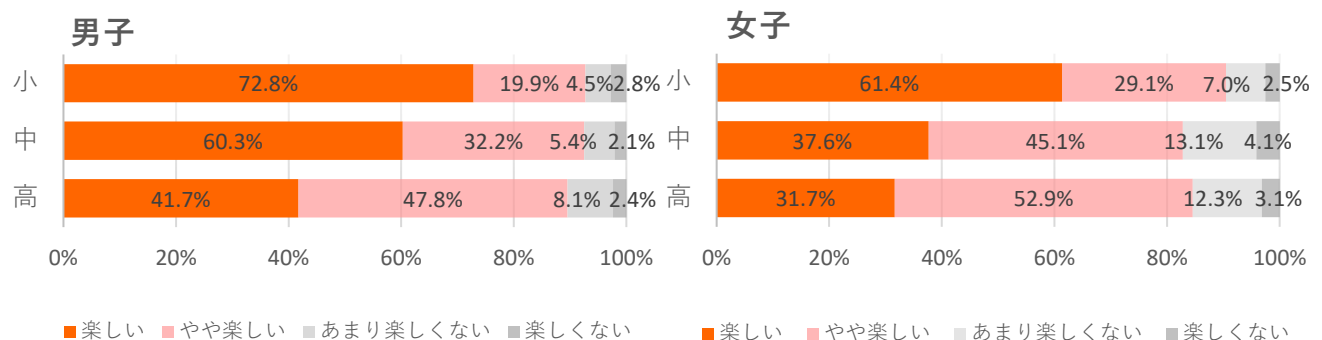
運動やスポーツが好きですか



運動やスポーツは大切なものですか



体育（保健体育）の授業は楽しいですか



(3) 体育（保健体育）の授業は楽しいですか

いずれの校種も80%以上の児童生徒が、「楽しい」、「やや楽しい」と肯定的な評価をしている。小1～4年生の結果が、中、高に比べて高いため、グラフでは大きく減少しているように見える。「楽しい」の割合で比較した場合、小6から中1では、男子で-0.1ポイント、女子で-2.8ポイントであったが、中3から高1では、男子で-20.9ポイント、女子で-8.1ポイントと大きく減少している。

(1)との比較では、肯定的な評価において、いずれの校種、学年でも「体育（保健体育）の授業が楽しい」が「運動やスポーツが好きですか」を上回っている。

7 今後の取組

「新潟県体力テスト」、「健康増進・体力向上のための『1学校1取組』」は平成15年に始められ、実施要項、実施要領を本年度大きく見直した。

体力テストでは、児童生徒の個人データをすべて提出いただいたことにより、より正確な実態を把握することができたため、次年度以降の推移を注視していく。また、アンケート調査により、高等学校を含めた全学年の意識に関する情報を得ることができた。これを基により詳細な分析を進め、授業改善を図る際の資料をまとめる予定である。

また、1学校1取組では、テーマを設定して取組の焦点化を図ったが、各校の報告書から好事例をとりまとめ、全県に周知する。併せて、本年度始めた学校訪問の記録をまとめ、各校での授業改善の参考となるよう情報を提供する。